

国際学会報告

A Discussion on the Japanese Inner Life for Teaching the Spiritual Caring,
Symposium "Caring and Practice"
The 3rd International Society of Caring and Peace Conference in Kurume

第3回国際ケアリング学会 シンポジウム「ケアリングと実践」
ケアリングの看護実践教育のために日本人の精神生活を考える

Hirofumi Takagi

高木 廣文

キーワード：ケアリング、スピリチュアルケア、宗教、密教、空海

key words : caring, spiritual care, religion, esoteric Buddhism, Kukai

要 旨

2017年3月26日（土）、27日（日）に、久留米市で“The 3rd International Society of Caring and Peace Conference in Kurume”（第3回国際ケアリング学会）が開催された。27日には、Symposium “Caring and Practice”があり、Yuki Asakura氏（Penrose-St. Francis Health Services）、堀内成子氏（聖路加国際大学）とともに、著者はシンポジストの一人として、“A Discussion on the Japanese Inner Life for Teaching the Spiritual Caring”（ケアリングの看護実践教育のために日本人の精神生活を考える）を以下の内容を発表した。発表後は、Jean Watson氏がコメンテーターとして、演者らも含めて討論がなされた。なお、発表での使用言語は英語であったが、ここでは日本語で表記する。

1. はじめに

シンポジウムでの発表内容は、以下の通りである。

- ① ケアリングの構造主義科学論モデル
- ② 人間性教育は本当に可能か
- ③ 日本人の宗教観に影響した思想は何か
- ④ 空海の思想について（十住心論、即身成仏義）

まず、①により、「スピリチュアル・ケアリング」¹⁾を構造主義科学論²⁾の立場から定義する。モデルなしでは、どのような現象も科学的に説明できないからである。

第2に、「良いケアリング」を教えるためには、全人的教育を考えるべきであるので、昔メノがソクラテスに問うた質問「徳は教育によって得られるのか」³⁾といことを簡単に考察してみたい。

次に、ホーリズムの立場から⁴⁾、患者と関係者の心を把握し、ケアリングを教えるためには、日本人の内的生活を理解すべきである。

私の仮説は、大部分の日本人は「根っからの仏教徒である」というもので、とくに弘法大師空海⁵⁾の思想が、日本人の内的生活にまだ影響しているということである。

空海は多くの真言密教についての著作があり、「即身成仏儀」^{5),6)}や心の発達段階を十段階に説明した「秘蔵宝鑰」（十住心論）⁷⁾⁻⁹⁾などがある。このため、日本人の内的生活を説明するために、主に2つの著作を中心として、空海の思想を紹介したい。

2. 構造主義科学論による
ケアリングのモデル

まず、科学的なケアリングのモデルのために、

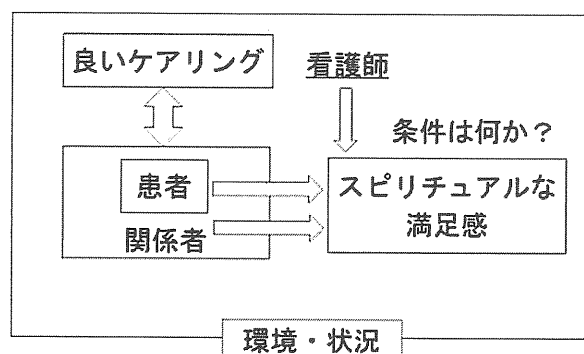


図1 ケアリングの構造主義科学論によるモデル

図1に示したようなある構造を仮定する¹⁰⁾。このモデルでは、看護師はある良いケアリングを患者に与える。順番に、最終的に患者と関係者はあるスピリチュアルな満足を得ることができる。実際には、看護師自身がケアリングに満足したとしても、患者と関係者が必ずしも満足するとは限らないだろう。問題はスピリチュアルな満足をもたらず条件は何かということである。

実際に看護師が何か良いケアリングができて、患者と関係者が必ずしもスピリチュアルに満足できないことがあるに違いない。何が必要なのだろうか。

ナイチンゲールが言うように「看護はアートでありサイエンスである」¹¹⁾。それゆえ、一般的に「専門的知識」と「十分な看護技術」が看護師には必要である。さらに、プラスアルファが必要に違いないと考えられる。私は、それは「看護師の人格」であると仮定する。とくに、看護師と患者の宗教的背景に関係する様々な思想を知る必要があると考える。

3. 人間性教育と日本人の宗教観について

1) 人間性教育は可能か

まず始めに、宗教観に基づいて人間性の看護教育として、教育方法を精査したいのならば、日本人の宗教的背景はどのようなものかを考えるべきである。

外国人や日本人でさえも、「多くの日本人は宗教を信じていない」とか、「日本人は無宗教である」とか、「日本人は汎神論者である」とか言うことがしばしばある^{12), 13)}。それは本当だろうか。私は、この質問に答えようと思う。我々には、2つの主要な問題がある。すなわち、

①人間性教育は本当に可能だろうか。

②日本人の宗教観にどのような思想が影響しているのか。

これらの問題について考えてみたい。

メノがソクラテスに尋ねたように、「全人的教育のためには、徳というものは教育や実践によって得られるのか」³⁾ということを考えねばならない。

これは、約2,400年前にプラトンによって書かれた有名な物語であり、ソクラテスの答えは通常の教育に否定的なものである。彼の考えは、「良い教育とは、すでに保有している知識を回復すべきである」というものであった。なぜならば、我々は何度も輪廻転生しており、前世で様々な分野の知識について、すでに生まれながら知識を有しているからである。当時、古代ギリシャ人はそのような輪廻を信じていた。

ソクラテスの考えは、もしかしたら本当かも知れないし、極めて魅力的であるかもしれない。しかしながら、ポッパーの反証主義の立場からは、反証不可能な仮説であり、科学的な考えではない¹⁴⁾。ここでは、人間性教育は可能であると仮定して、議論を続けよう。

2) 日本人の宗教観と空海 of 思想

2番目の問題について説明しよう。すなわち、「日本人の宗教観にどのような思想が影響しているのか」という問題である。

「多くの日本人は無宗教である」とか「日本人は汎神論である」というのは本当だろうか。その答えは、空海 of 思想にあると思う。日本では、空海は弘法大師として非常に有名である。空海は多くの著作をなしている。ここでは、空海 of 思想によって日本人 of 心的生活を論じるために、2つの著作について説明したい。すなわち、空海による真言密教について説明したい。

まず、簡単に空海 of 生涯について紹介する^{15), 16)}。

774年、後の空海は四国讃岐国多度郡（香川県善通寺市付近）で佐伯家三男として生まれた（幼名、真魚）。佐伯家は皇室守護の家系であり、大伴一族に属していた。一族では、万葉集の編者として、大伴家持がよく知られている。

18歳（数え年、以下同じ）のとき、当時日本で唯一の大学寮に入学するが、すぐに退学してし

まう。この理由について、24歳のときに、『三教指帰』を書き、儒教、道教との比較で、仏教を選んだことを宣言する^{17), 18)}。「大日経」についての疑問を解くために、31歳のときに留学生として入唐する。経典の理解のためにはサンスクリット語や密教の知識、口伝などを理解する必要があったためである。しかし、なぜ大学を退学した私度僧の空海が、朝廷の留学生に選ばれたのかはいまだに謎である。

32歳のとき、唐の長安の青龍寺の恵果和尚より灌頂を受け、正統な第8代密教相承者となる。恵果和尚の遺言に従い、本来20年のところを2年あまりの留学期間で日本に帰国する。

33歳(806)で帰国し、唐よりもたらした仏典、仏具などに関する『御請来目録』を朝廷に提出するが、入京を許されず九州で待機させられる。

43歳(816)のときに高野山を賜る。44歳(817)で『即身成仏儀』を著し、現世において成仏できることを明かす^{5), 6)}。55歳(828)のとき、綜芸種智院(我国初の私立大学)を開設する。

57歳(830)のとき、淳和天皇の勅命(六宗; 律、法相、三論、天台、華嚴、真言、は各宗派の教義を提出すること)により、『秘蔵宝鑰』と『秘密曼荼羅十住心論』を著す。

62歳(835)に入定するが、真言密教では、入滅ではなく、永遠の瞑想に入っているものと解釈される。87年後に、醍醐天皇より「弘法大師」の諡号を賜る。空海は書に優れ、嵯峨天皇、橘逸勢とともに平安時代の三筆として知られている。

4. 空海の十住心論

1) 十住心論の概要⁷⁾⁻⁹⁾

空海は、人間の心の発達段階を以下のように、十段階に分類した。すなわち、

- ①異生羝羊心、②愚童持斎心、③嬰童無畏心、
- ④唯蘊無我心、⑤拔業因種心、⑥他縁大乘心、
- ⑦覺心不生心、⑧一道無為心、⑨極無自性心、
- ⑩秘密莊嚴心

である。

第一住心①は、性欲、物欲など煩惱の心に満ちており、まったく善を行わない雄羊のような獣のような心である。第二住心②は、普通の人間であり、道徳に目覚め、儒教的境地を行う心である。第三住心③は、この世を厭い、天国に生まれたい

と思う、道教、外道(仏教以外の教え)、神への帰依心である。

第四住心④は、小乗仏教(現在この用語はあまり使われないが、当時のままとした)の声聞乗の境地である。第五住心⑤は、小乗仏教の縁覺乗の境地である。

第六住心⑥から第十住心⑩までは大乘仏教の境地である。第六住心⑥と第七住心⑦は、菩薩乗の境地である。第八住心⑧と第九住心⑨は仏乗の境地である。これらの住心は最終的な境地ではないが、より高い境地の基になるものである。第二住心から第八住心までの教えは、他者を利するための応身仏によるものである。

第十住心⑩は、真言密教であり、金剛(ダイヤモンド)のように最も秘密で壊れることのない究極の真実であり、法身大日如来が自らの楽しみのためになした、全ての他の教えを超越する教えである。このことを、空海は、「顕藥塵を払い 真言庫を開く。秘宝たちまちに陳して 万徳すなわち証す」(顕教の教えは、宝の箱の塵を払っているような効用しかない。真言密教こそ宝の倉を開き、中の秘宝が陳げられて、如来の徳をこの身に体得することができる)と述べている⁷⁾。

空海は心を十段階に分類したのだが、自身が述べているように心は無数にある。これらの心の十段階は、最低から最高までの心の十水準である。宗教心の発達、スピリチュアルな覚醒の過程であり、人の心の発見である。そのため、心が最低な状態であっても、覚者となる潜在力、すなわち仏性があるものと空海はみなした。

マハーバイロチャーナ・タタガタ、すなわち大日如来は人びとの心の段階、すなわち「機根」に応じて説教する。それは、すべての有情の悩みを取り去るために、有情のスピリチュアルな要求に対するものである。これが、世界には多くの神々や聖人がいる理由である。そして、密教では、すべての仏、神々、聖人らはすべて大日如来の一時的な応化身であると考えられる。それゆえ、日本人は無神論でも多神論でもなく、あらゆる異なる信念や異教でさえも受け入れるための、宗教的基盤を持っていると考えられる。

2) 日本神道との関係について

歴史的に、皇室の主な宗教は日本神道であり、

当時は神道が一般的であった。しかし、皇室において仏教と大きな諍いはなかった。主な理由として、仏教は国家安寧と人びとに利するためのものと考えられていたからである。さらに理由として、天照大神と大日如来の間の特別な類縁性があるためと考えられる。天照大神は、神道における中心の神であり、「偉大な太陽の女神」という意味がある。大日如来も同様に、「偉大な太陽の仏陀」である。ただし、仏陀は神ではなく、最高的人格を備えた人間であるのだが。密教では、天照大神は大日如来の応化身と考えられるし、他方、神道では大日如来と天照大神は同一であると考えられる。すなわち、「神仏習合」であり、「神道と仏教の融合」である。

3) 空海の十住心論からの結論

我々の心は計り知れないのであるが、空海は十段階に分類した。しかし、空海はどのような心の状態でも許容した。それは、どんな住心であっても、より上の段階に発展する可能性があるからである。我々は、心を発展させ、最終的には即身成仏に至らねばならない。空海のこの枠組みにおいて、どのような異教（外道）であれ全ての思想を受け入れる必要がある。

4) 曼荼羅について

真言密教において、曼荼羅はその教義を理解するために極めて重要である。曼荼羅には、大日経に基づく「胎藏曼荼羅」と、金剛頂経に基づく「金剛界曼荼羅」が重要である¹⁹⁾。

曼荼羅の正しい意味を、簡単に説明することは難しいと空海は述べている。もし実際に意味を理解しようとして説明を受けたとしても、小さな能力しかない人ならば、かえって疑いや誤解をするだろう。その結果、三悪趣（地獄道、餓鬼道、畜生道）に落ちてしまうかもしれない。実際には、灌頂を受けた後に、真言密教の宗徒は阿闍梨から教義を授けられなければならない^{7), 8)}。したがって、曼荼羅の深い意味について、私が説明するのはやめるべきだろう。しかし、今回は特別であり、その意味を一部だけ説明しよう。

大日如来が曼荼羅の中央に座しており、その周りを4人の仏陀が取り巻いている。同様な状況が他の仏陀についてもある。実は、この同じ状況は、

我々の人間関係にまで拡張することができる。

曼荼羅の中には、非常に多くの仏陀が存在している。しかし、全ての仏陀は、実際には大日如来の応化身である点が非常に重要である。全ての有情のスピリチュアルな要求にしたがって、悩みを除くために説教をしているのである。そして、我々も実際には大日如来と同体である。これが密教における曼荼羅の秘密の意味のひとつである。このことから、空海は全ての有情はこの生身の存在で悟りに到達することができると結論付けた。すなわち、「即身成仏」である。

5. 即身成仏について

空海は、彼の考えを説明するために、8句の頌を書いている^{5), 6)}。

- ①六大無礙常瑜伽（六大無礙にして常に瑜伽なり）
- ②四種曼荼各不離（四種曼荼各々離れず）
- ③三密加持速疾顯（三密加持すれば速疾に顯わる）
- ④重重帝網名即身（重重帝網なるを即身と名づく）
- ⑤法然具足薩般若（法然に薩般若を具足して）
- ⑥心数心王過刹塵（心数心王刹塵に過ぎたり）
- ⑦各具五智無際智（各々五智無際智を具す）
- ⑧円鏡力故実覺智（円鏡力の故に実覺智なり）

初めの1頌4句①～④は、「即身」の意味を表し、次の1頌4句⑤～⑧は「成仏」を表している。初めの4句は、法身大日如来の、本質（体）、姿（相）、活動（用）、無礙（相応・一体・同体）であることを表している。次の1頌4句で、第1句は法身大日如来の成仏の意味を表し、次に法身は法界に遍満し無数であること、第3に法身所有の五智（大円鏡智、平等性智、妙觀察智、成所作智、法界体性智）は世の全てに行き渡っており、漏れないこと、最後に、大日如来が実覺智として実在していることを表している。

「六大」とは、世界を構成する地・水・火・風の4つの要素と、その入れ物である「空」、そして「識」の6つの基本的構成要素を示している。

「三密」とは、身・口・意を用いて行う秘密である。真言宗徒が三密を上手く反映するならば、印契を組、経文を唱え、瞑想状態に心を安住させ、大日如来を心に画いて瞑想する。大日如来とすべ

ての有情の本性に変わりはない。すなわち、大日如来も有情もどちらも六大からなり、実在物であり、根源的な空の原理を保有している。有情は、このことについて知らず、無知のままである。大非の心から、覚者（仏陀）は世に現れ、大慈悲と大智により、人びとを安楽にし苦を取り除く（抜苦与楽）。

このような考えは、患者の苦痛を取り去り、安楽な状況を提供しようとする看護ケアの姿勢に、極めて合致し整合的だと私には思われる。

6. まとめ

空海が入定してからすでに1200年以上がたった。多くの幕府、政府がそれぞれの宗教政策を行ってきた。そのため、我々の宗教観は変化したかもしれない。しかし、日本人の宗教に対する傾向は、大きくは変化していないのではないかと、私は思っている。スピリチュアルな心の原点は、空海思想にある、と私は考えている。

ここでの、発表のまとめは以下の通りである。

- ① 空海の密教思想から日本人の多くが、何故多様な宗教に寛容なのか説明できる。
- ② 自利のみでなく他利をもたらす思想があり、抜苦与楽が自然な発想である。
- ③ 多くの日本人は自己の宗教観に無自覚なので何らかの教育が必要と考えられる。
- ④ ケアリング教育においては、多くの日本人のこのような宗教的背景の考慮が必要である。
- ⑤ 患者とその関係者の宗教的背景を考えられるような看護師の養成が望まれる。

最後に、空海の有名な漢詩（七言絶句）を紹介したい。空海的心情を理解するためには、この詩は、英語よりも日本語の方がよいと思う。

『後夜に仏法僧鳥を聞く』¹⁶⁾

閑林獨坐草堂曉（閑林に獨坐す 草堂の曉）

三宝之聲聞一鳥（三宝之聲 一鳥に聞く）
一鳥有聲人有心（一鳥聲有り 人心有り）
聲心雲水俱了了（聲心雲水 俱に了了）

引用文献

- 1) 稲岡文明他訳：ワトソン看護論第2版，医学書院，2014.
- 2) 高木廣文：質的研究を科学する，医学書院，2011.
- 3) 渡辺邦夫訳：プラトン「メノン——徳について」，光文社電子書店，2013.
- 4) 大出晃他訳：クワイン「ことばと対象」，勁草書房，1984.
- 5) 加藤精一編：空海「即身成仏義・声字実相義・咄字義」，角川ソフィア文庫，2013.
- 6) 弘法大師空海全集編輯委員会：即身成仏義，弘法大師空海全集第二巻，筑摩書房，219-262，1983.
- 7) 加藤純隆他訳：空海「秘蔵宝鑰」，角川ソフィア文庫，2010.
- 8) 弘法大師空海全集編輯委員会：秘蔵宝鑰，弘法大師空海全集第二巻，筑摩書房，3-146，1983.
- 9) 弘法大師空海全集編輯委員会：秘密曼荼羅十住心論，弘法大師空海全集第一巻，筑摩書房，1983.
- 10) 池田清彦，構造主義科学論の冒険，講談社学術文庫，1998.
- 11) 湯槇ます監修：フローレンスナイチンゲール著「病院の看護と健康を守る看護」，ナイチンゲール著作集第二巻，現代社，125-155，1974.
- 12) 島田裕巳：無宗教こそ日本人の宗教である，KADOKAWA，2009.
- 13) 阿満利磨：日本人はなぜ無宗教なのか，筑摩e-ブックス，2004.
- 14) 中山康雄：科学哲学入門——知の形而上学，勁草書房，71，2008.
- 15) Y. S. Hakeda: Kukai: Major Works, Columbia Univ. Press, 1972.
- 16) 加藤精一：空海入門，角川ソフィア文庫，2012.
- 17) 加藤純隆，加藤精一：空海「三教指帰」，角川ソフィア文庫，2007.
- 18) 弘法大師空海全集編輯委員会，三教指帰（聾瞽指帰），弘法大師空海全集第六巻，筑摩書房，4-143，1984.
- 19) 宮坂宥勝：密教経典 大日経・理趣教・大日経疏・理趣釈，講談社学術文庫，2011.

